

市税の課税と収税状況

(平成15年3月末現在 人口:40,772人 世帯数:11,465世帯)

区分	予算額 (千円)	課税額 (千円)	収納額 (千円)	収納率 (%)	市民の税負担(円)	
					1人当たり	1世帯当たり
市民税	1,431,822	1,542,102	1,467,698	95.2	25,983	92,403
普通税						
固定資産税	2,401,739	2,620,431	2,415,137	92.2	60,267 (33,152)	214,323 (117,897)
軽自動車税	70,173	75,417	71,718	95.1		
たばこ税	265,799	258,818	258,818	100.0		
特別土地保有税	1	0	0	—	9,495	33,767
目的税						
入湯税	225	280	280	100.0		
都市計画税	57,217	59,623	54,828	92.0		
合計	4,226,976	4,556,671	4,268,479	93.7	95,745 (68,630)	340,493 (244,067)

※市民の税負担の金額は課税額です。ただし、市民税は法人市民税を、また固定資産税は固定資産等所在市町村交付金をそれぞれ除いてあります

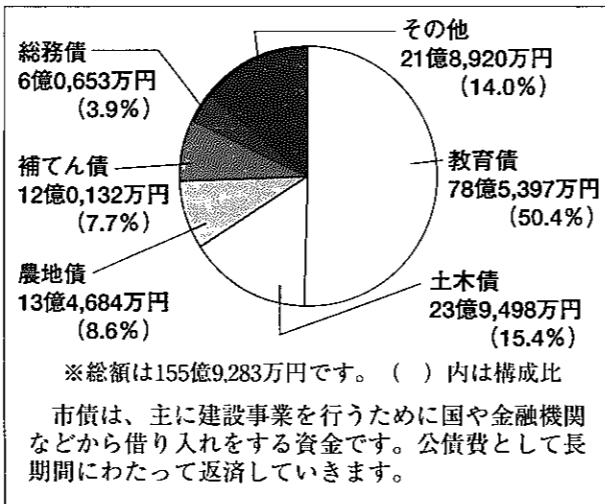
※()内は固定資産税法人課税分を除いた場合の数値です

市民1人当たりの一般会計決算額

目的別	平成14年度	平成13年度	増減
民生費	71,300円	71,034円	266円
公債費	41,212円	39,431円	1,781円
総務費	37,036円	38,203円	△1,167円
教育費	69,029円	34,887円	34,142円
農林水産業費	20,567円	26,242円	△5,675円
衛生費	22,658円	23,740円	△1,082円
土木費	17,658円	23,150円	△5,492円
商工費	15,734円	18,186円	△2,452円
消防費	17,107円	16,979円	128円
その他	4,969円	6,870円	△1,901円

※平成15年3月末現在の人口(40,772人)で計算しています

市債の残高状況(平成14年度末現在)



財政状況
引き続き
厳しい状況続く

市税の伸び悩みなどの財源不足が続く中で、現在必要な事業を優先的に選択して取り組んだ結果、十四年度の歳入歳出差引額は三億八、三九一万円(前年比四・四％減)となりました。この金額から十五年度へ繰り越した事業に充てるべき財源一八〇万円を控除した場合の実質収支は、前年度に比べて一、〇六四万円増の



歳出
前年度に比べ増加

歳出決算見込み額については、前年度に比べて七億六、三九九万円(六・三％)増の二億九、九三三万円(二二・七％)の減少となりました。

また教育費では、白南中学校建設事業の増加により、一億九、二九六万円(九八・〇％)の大幅増となりました。

農林水産業費では、農村総合整備事業や県営事業負担金の減少で、二億三、〇七一万円(二一・六％)の減少。土木費でも、緊急水害対策事業の完了等により、二億二、三三三万円(二二・七％)の減少となりました。

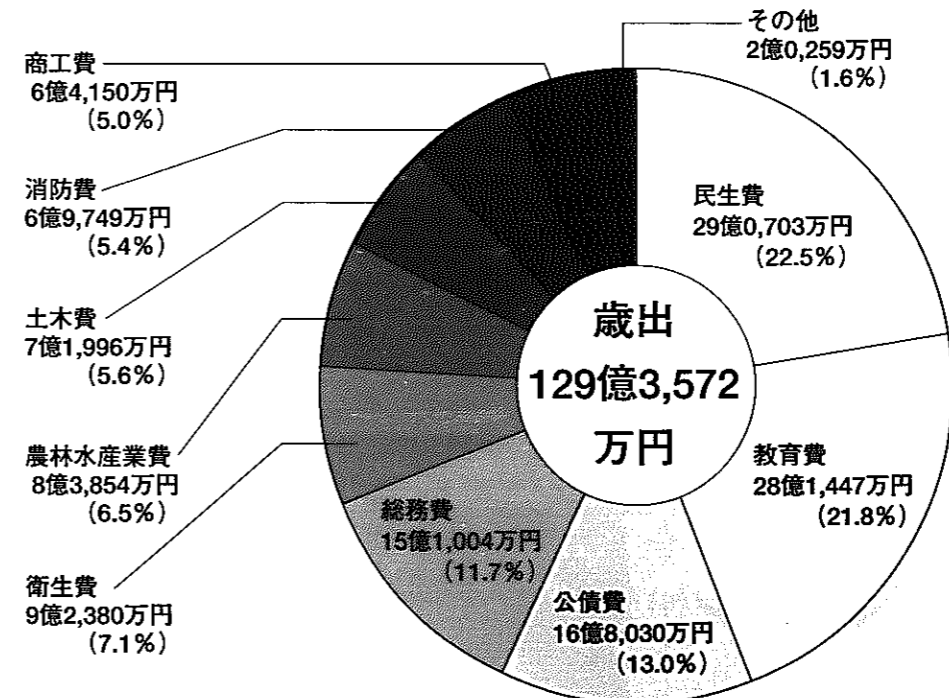
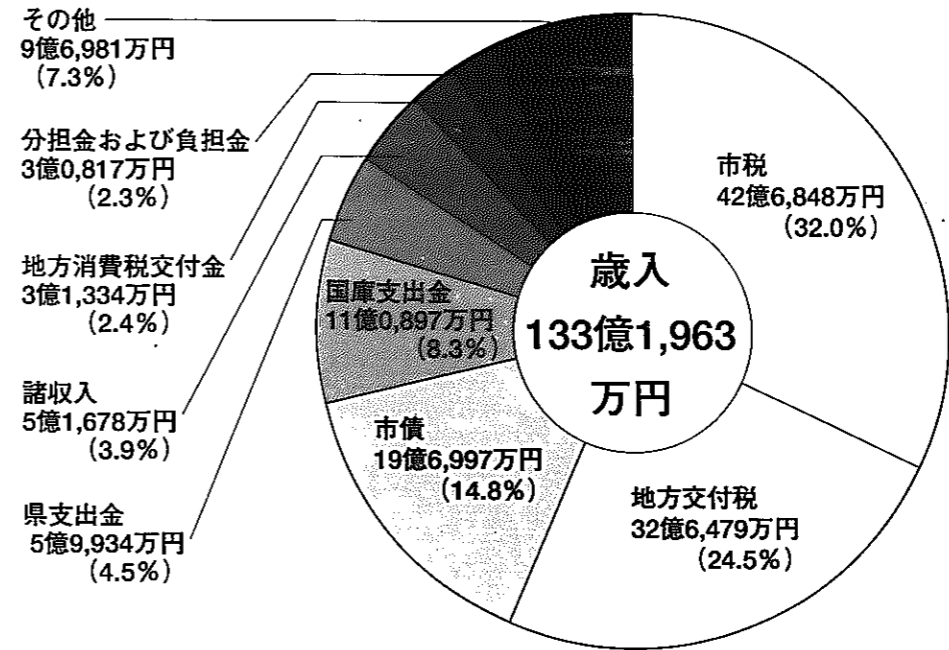
経常収支比率とは...

人件費、扶助費、公債費など毎年持続して固定的に支出される「経常経費」に対して、市税、地方交付税などを中心とした毎年連続して経常的に収入されるもののうち、使途が特定されているものを除いた「経常一般財源(使途を特定されず自由に使用できる財源)」が、どの程度充当されているかを示します。

この「経常収支比率」で、市町村の財政構造の弾力性を判断することができ、経常経費に充てた経常一般財源の割合が少ないほど、財政構造に弾力性があるといえます。一般的には七五％が妥当と考えられています。

三億八、二二一万円でした。また市町村の財政構造の弾力性を判断する経常収支比率は八四・三％(前年比〇・二％増)となっています。一般的には七五％程度が妥当と考えられており、それに比べると白根市の財政状況は、厳しいものであるといえます。

市では、今後も財政運営の見直しと経費全般の節減を心掛けて、財政の健全化と住民福祉の向上を目指していきますので、皆さんのご理解とご協力をお願いします。



※金額は千円の単位、パーセントは小数点第2位を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。()内は構成比

歳入
市税が微増

歳入決算見込み額は、一三三億一、九六三万円と、前年度に比べ七億四、六四七万円(五・九％)の増加となりました。

主要な歳入である市税は、不況の影響から減収が続いていましたが、十四年度では、市税の全体額が四二億六、八四八万円と、九、八〇〇万円(二・三％)の増加となりました。

また地方交付税が前年度に比べ、二億三、四七八万円(六・七％)減少。国庫支出金は義務教育施設整備事業補助金など四億四、五二八万円(六七・一％)の増加、県支出金は農林水産業総合振興事業補助金など一億三、七三三万円(一八・六％)の減少となりました。

このほか市債では、義務教育施設事業債や地方交付税から振り替えられた臨時財政対策債の増により、八億七、五七七万円(八〇・〇％)の増加となりました。

平成14年度一般会計決算見込みまとめまる
白根市の財政状況って
どうなってるの？



平成十四年度の一般会計決算見込み額がまとまりました。当初予算では、前年度に比べ一億四、八〇〇万円(一・三％)増の一億八、八〇〇万円を計上し、その後十四回の補正予算を編成した結果、最終予算額は二億三、一四九万円となりました。

これらの予算に基づいて財源の確保と経費の削減に務めた結果、決算見込み額は、歳入が一三三億一、九六三万円、歳出が一三九億三、五七二万円となりました。